

やまぐちっ子学力向上だより

第139号 R5.11.22

山口県教育庁義務教育課

やまぐち学習支援プログラム活用推進研修会

11月7日（火）にやまぐち学習支援プログラム活用推進研修会を開催しました。この研修会は、やまぐち学習支援プログラムを効果的に活用している4校の事例を知ることを通して、自校での効果的な活用につなげていただくことを目的として行いました。

事例発表4校の活用の概要を紹介します。

岩国市立麻里布中学校

プリント冊子と色塗りカードにより、すべての子どもが確実に取り組む

子どもの課題やこれまでのやまぐちっ子学習プリントの活用状況を振り返り、よりよい活用になるように工夫をされています。そのことにより、以下のような効果が生まれています。

これまでの課題

- ・子どもの学力に差がある
- ・副教材を終えることができない子どもがいる
- ・教員によって活用頻度が異なる

活用の工夫と効果

- ◆いろいろな教材を使うのではなく、やまぐちっ子学習プリントを活用する
プリントをすべて印刷し、子ども一人ひとりに冊子にして渡す
→苦手な問題にも取り組むようになった
- ◆プリントが1枚できたら、取組状況を確認するすごろく形式の色塗りカードに色を塗る
→すべてのプリントをしようという意欲をもつようになった
子ども一人ひとりの進捗状況を確認できるようになった
- ◆毎月、朝学習の計画を立てる際に、いつ、どの教科のプリントをするのかを計画する
→全校体制での計画的な取組になった

周南市立秋月小学校

「プリントの選定」→「宿題」→「解説」の流れで効果UP！

「難しいところを解説しなければ、学習内容の理解や定着につながらない」という思いから、必ず解説をする時間を設けるようにされています。

月曜日から水曜日…プリントの選定・印刷をする
木曜日…プリントを宿題として出す
金曜日…朝学で答え合わせと解説をする

毎週、この流れで活用することで、次のような声があがっています。

計算ドリルは自分で丸付けをして終わりだけど、先生の説明を聞くことができて分かりやすいです。



解説をしながら、授業でもこういうところに気を付けて教えないといけないんだなと改めで気付かされます。



下関市立安岡小学校

全校体制での習熟度別補充学習で子どもの意欲と学力の向上

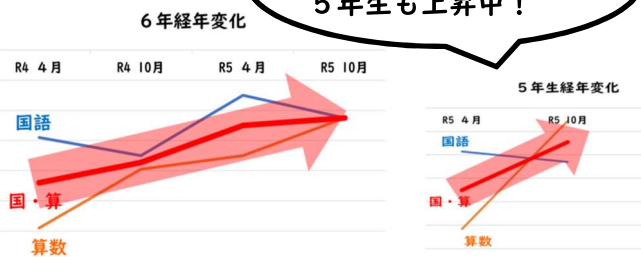
「一人ひとりの学習の習熟度に合わせて補充学習をしよう」

「学習が苦手な子どもにはより多くの教員が関わろう」

という思いから、以下のような仕組みをつくって活用されています。

- ◆火曜日の6校時を4～6年生の補充学習の時間として教育課程に位置付け
- ◆各学年を3つの習熟度別グループに分け、学習が苦手な子どもには個別指導
- ◆管理職や専科、低学年の担任等が個別指導にあたる

このような仕組みに加え、多様なプリントの選択や教室掲示、達成状況の確認表などの工夫により、子どもも先生も「力をのばすために頑張ろう！」という思いをもつとともに、右のグラフのように学力が向上しています。



萩市立大井小中学校

目的に応じた活用で、学びの自覚化を促す

教員が目的や意図をもって学習活動を仕組むことを大事にする中で、以下のような様々な場面で目的を明確にしながらプリントを活用されています。

- 朝 学 習…課題のある分野の学び直し
- 授 業…定着状況の確認、練習
- 家庭学習…練習、テスト前の練習
- 補充学習…自分の課題に応じた学び直し
- 単 元 前…小中のつながりや単元のつながりの確認、既習内容の復習

このような様々な場面での活用を通して、子どもが自分の成長や課題を感じ、自ら学習改善を進めていけるようになってきています。

小学校4年生のプリントから復習すると、自分がどこでつまづいているのかが分かりました。



中学校の生徒

4校の活用で共通しているのは、

「子どもがやる気をもって取り組める**仕掛け**をし、全校体制で活用できる**仕組み**をつくり、それが**学力向上のために習慣**になっている」

ことです。研修参加者の先生方にもそのことが伝わり、大変よい研修になりました。



参加者アンケートより

子ども一人ひとりの個に応じた活用をしていきたいです。

教育課程に位置付けて、全校体制で活用できるようにしたいと思います。

4校の事例の詳細についてお尋ねがある場合は、義務教育課まで御連絡ください。各学校がよい仕掛け・仕組み・習慣を作れるよう、一緒に考えていきます。